

第 1 回 塩竈市水道事業基本計画検討委員会の概要

日 時	令和3年5月17日(月) 15:00~17:00
場 所	塩竈市水道部2階大会議室
出席委員	西村委員、嶺岸委員、小林委員、鈴木(洋)委員、東委員、内海委員、 鈴木(幸)委員、千坂委員 欠席委員 1名
塩 竈 市	市長、水道部長、水道部次長、水道部業務課長
事 務 局	水道部業務課企画総務係
司 会	業務課長

1. 開会

2. 委嘱状交付

市長から、委嘱状を交付

3. 市長挨拶

- 本日は、お忙しい中、水道事業基本計画検討委員会にご出席賜り、誠にありがとうございます。また、改めまして、今回の委員への就任にあたり、ご多忙にもかかわらず、快くお引き受けいただきましたこと、心より御礼を申し上げます。
- 今回の基本計画は、令和4年度から10年間の水道事業の目指すべき指針や具体的な施策を示す長期的な計画でございます。今回の計画策定にあたり、皆様の各分野からの専門的知見や水道利用者としての視点と発想を基に策定して頂ければと考えております。
- 水道利用者としての皆さんが感じている不満、不安も遠慮なく、ご自分の心をストレートにぶつけていただくことが、計画をよりよくするものと考えております。
- 現在、水道事業を取り巻く環境は、大きく変化してきております。コロナウイルス感染症の拡大による経済状況の変化、全国的な人口減少等による水需要や料金収入の減の一方、拡張時代の施設・水道管が老朽化し、更新が必要ですが、更新には、多額の費用が必要で、財政的にも大変厳しい状況になっていくことが予想されます。
- 本市については、平成9年以降水道料金を改定しておりませんでした。市民の皆様には現状をお知らせし理解を得ながら、適正な料金の在り方についてもご検討をお願いできればと考えております。
- 利用者の皆様にお聞きすると、塩竈の水道料金は高い、とよく言われております。しかし、これについては、水道料金ではなく、下水道料金が周辺自治体に比べて倍近く高く、上下水道料金を合わせて請求していることから感じる事となっております。
- また、本年2月の地震により油流出事故が発生し、市内一部地域を除き断水を余儀なくされましたことについて、市民の皆様には、多大なるご不便、ご迷惑をおかけしましたことを改めてお詫び申し上げます。そのことから、危機管理の充実や地震等に対応する耐震化の取り組みが引き続き重要であると認識しております。

- 断水の経験から、行政として改めて問題意識を持つ必要があると考えております、ライフラインは電気、ガス、水道のうち水道は直接塩竈市が関わる大変重要なものであります。
- 高齢者の方は、避難所などに給水車が来ても、水を取りに来ることが難しい、エレベーターがない高層住宅で、水を抱えて階段を上ることが大変な苦勞となる。水が止まった時どういった方がお困りになるのかを痛感いたしました。
- 本市は、今年市制施行 80 周年を迎えますが、市民の暮らしを支える塩竈の水道の歴史は更に古いものとなります。
- 水道や下水道は、今後人口が増えていく想定のもと整備されたものであります。残念ながら、現状では人口の減少が始まっています、その一方で、市販のペットボトル水の普及もあり、設備投資したが、需要が減少して料金収入は減っていく状況です。行政としてこの収支のギャップをどう埋めていくかが大きな課題となっております。
- 委員の皆様には、普段の生活やお仕事の状況を通じて、この需要の問題へもご意見をいただければと考えております。
- 今後も、継続して安全、安心、安定的に水の供給ができる計画となりますようお願い申し上げます、挨拶に代えさせていただきます。

挨拶後、市長退席。

4. 委員紹介

事務局より、各委員の及び事務局職員の紹介。

5. 委員長選出

西村委員を委員長に選出、委員長指名により、嶺岸委員を副委員長に指名。

(1) 西村委員長より就任の挨拶

- 前回の基本計画策定に際しても、検討委員として参加させていただいてから、10 年間水道事業の動向を注視させていただいた。この間、様々な努力の結果、成果を上げていると感じている。
- 水道は、生活、産業の基盤であり、水道の将来は、塩竈市の将来に直結する重要なものとなる。塩竈の水道は 100 年を超える長い歴史を持っており、これは一度作ると、簡単に変えることが難しいともいえる。今回の計画は向こう十年間を計画するものだが、30 年、50 年先を見据えた計画となるよう、委員皆様の忌憚のないご意見を頂きたい。
- 他の自治体の委員会に参加しているが、委員に大学生の方が参加されることは今回が初めてのケースであり、大変感銘を受けた。これからの社会を担う若い世代の意見をうまく引き出していきたい。

(2) 嶺岸副委員長より就任の挨拶

- 女性が活躍する時代、このような場に女性が多く参加されているのは大変すばらしく、また、若い世代も参加されることは大変有意義な会議になると考えている。
- 今後 10 年の計画を策定するにあたり、これまでにない良い計画が出来上がるよう委員長を中心に頑張っていきたい。

6. 水道事業の概要説明

事務局から資料に基づき説明。その後質疑応答。

(1) 塩竈市の水道の歴史及び塩竈市水道事業の概要

(委員) 有収率が全国平均より低い数値となっているが、その理由は

(事務局) 有収率は毎年度集計を行っているが、年によっては災害や火事によって濁り水が発生した場合など、洗管のために水を流す必要があり、その水は料金収入に直結しないものとなる。濁り水は水道管が古くなると出やすくなるので、水道管の更新を進めていく必要がある。

(委員) 水道事業についての説明で、工業用水に触れていない理由は。

(事務局) 工業用水は宮城県が運営するものであり、塩竈市の水道として、県から工業用水の供給は受けていないことから、関わりはない。なお、以前は塩竈市の水産加工業協同組合の利用する水を、塩竈市が委託を受け、工業用水を浄水し供給していた経過はあるが、現在は塩竈市の水道を生産用水として供給する形となっている。

(委員) また、県に負担金として支出しているのか。

(事務局) なお、県からは仙南仙塩広域水道事業として、飲用のための水道水は水道料金を負担し、供給を受けている。

(委員) 水産加工業協同組合への生産用水は有収水量に含めているのか、また、一般の水道料金と同じ額になっているのか。

(事務局) 有収水量に含まれている。なお、生産用水は一般とは別の料金となっている。

(委員) 専門的な話になるので、後日改めて経緯等を事務局から説明してもらいたい。

(委員) 収支が黒字になっていることは大変良いことである。更新投資を抑えるほか、人員削減などの経営努力の結果であることは理解した。しかし、現状のままで、料金を改定せず事業の運営は継続していけるのかを今後検討していくという認識でよいか。

(事務局) そのとおりである。説明のとおり、今後は人口減少に伴う料金収入の減少や、施設の老朽化に対する更新、梅の宮浄水場をはじめとした施設の更新時期が迫っているおり、投資の増加などにより、経営は大変厳しくなっているとの認識である。

(2) 塩竈市水道事業基本計画について

(委員) 受益者負担の原則から、今後の適正な水道料金単価をどうしていくか、人口減少社会の中で知恵を出し合っていかなければならない。水道が止まってしまうと、産業、漁業関係者に大きな打撃となる。安全な水の供給を重要な目標として位置付けてもらいたい。

(委員) 水道管の更新は耐用年数どおりに更新していくのか。

(事務局) 耐用年数どおりに更新するのが基本であるが、時代によって敷設された水道管の量はばらつきがある、高度経済成長期など大量に敷設された水道管をまとめて更新すると財政への負担が大きくなる。国からは、地形や、今までの漏水の頻度など様々な状況に応じて耐用年数を柔軟に調整することができるという方針が出されていることから、更新需要を平準化するよう検討していく。

(委員) 今後人口が減少して、収入が減っているなかで、水力発電などの新たな収入の確保も考えていかないとならないのではないかと。

(事務局) 収入の確保も検討が必要である。また、水道管の更新も、いままでと同じような水道管を敷設するのではなく、水道の使用料の減少に併せて水道管の口径を縮小するほか、複数の施設を一本化するなどのダウンサイジングも併せて検討していく。

(委員) 浦戸で海苔の加工を行っており、水を大量に使用している。水道の基本理念にある安全でおいしい水道を第一に計画を策定してほしい。

(委員) 宮城県として、水道事業の広域連携シミュレーションを行っている。今後の水道事業の経営基盤の安定には、市町村間の広域連携が不可欠であると考えている。水道事業は、人の命を守っている事業であり、経営が悪化したからといって撤退できるものでないため、適正な料金収入のもと運営を続けていく必要がある。広域化を実現することでスケールメリットを増やし、経営を安定させることを県として強力に推進している。

説明の中に、経営で黒字が出ているとあった、大変結構なことであるが、黒字だから料金を見直さなくてもよい、広域化をしなくともよいという意見が出る可能性がある。また、費用のうち減価償却費は設備の更新を進めると増加していくもので、更新しなければ減少し黒字が増えているように見えてしまう。現在黒字であっても、今後どのくらい更新が必要で、どのくらい現金が必要かという視点での説明をするなど、見せ方を工夫して計画を策定していったほうがよい。経営基盤の強化なくして、安心安全な水の供給は実現できないと考える。

(委員) 多賀城市の水道事業においても、人口の減少による収入減、施設の更新は大きな課題となっている。塩竈市の現計画の総括において、多数の項目が達成できたことは、企業努力の成果であり、収支において純利益を計上するなど、堅実な経営を行っていると感じている。今後十年間、施設の更新などの課題に対しどのような対策を講じていくのかを計画に盛り込んでいかなければならない。新水道ビジョンで示された、「持続」「安全」「強靱」、そして持続可能な経営基盤の強化について、委員会を通じて学ばせていただきたい。

(委員) 東京や、大阪、名古屋に住んでいたことがあるが、それらに比べて塩竈の水道料金が高いと感じている。料金に何故差が出るのか不思議に思っている。今後水道料金が安くなる見込みはあるのか。

(事務局) 水道料金は、収支の状況や、将来の見込みなどを通じて現行料金の検証をし、設

定することとなっている。まずは、塩竈市の水道の現状について検証していくことが重要となる。

(委員) 小学生のころ、社会見学で梅の宮浄水場に行った記憶があるが、水道については、蛇口をひねれば出てくるものというぐらいしか思っていなかった。水道の歴史など大変勉強になった。水道部ではその他にも出前講座を開催するなど PR を行っているのを初めて知った。詳しくは覚えてなくても、水道について触れる機会を設けるのは大事だと感じた。

7. 閉会

第2回検討委員会は7月頃を予定とする。